Vol. 34 No. 9624 Sunday, Jan. 1, 1939. TAIRIKU NIPPO 昭和十四年一月一日（日曜日）第九千六百三十四號

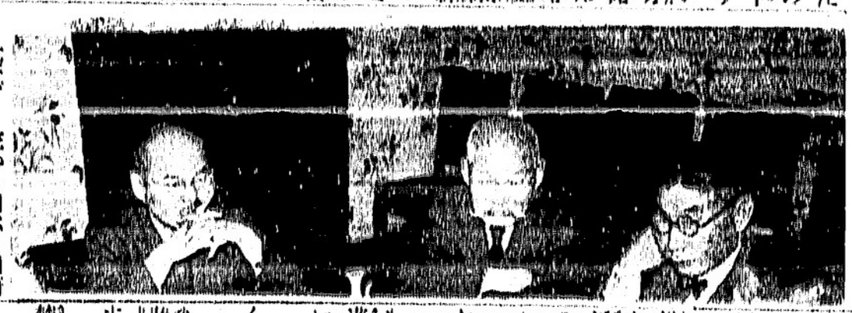
大陸日報

TAIRIKU NIPPO
(THE CONTINENTAL DAILY NEWS)
PUBLISHED BY
TAIRIKU NIPPO SHA LTD.
213 & 215 CORDOVA ST. E.
VANCOUVER, B. C.
新年號（第二）

出席者（イロハ順）

東京酒類組合　橋本市左衛門氏
アクメ商會　西五辻朱仲氏
日米商事會社　富永外次郎氏
愛國婦人會　岡田輝氏
日加洋行　内山雄治氏
カフェー・クラウス　深川久子氏
青谷富川女將
本社側　山崎社長　山本特派員

東京日比谷山水樓に於て



寫眞——左から山本、山崎、富永諸氏

日本國民生活座談會

本社東京支社主催

統制經濟下での生活

晩香坡緣故の人達が語る

偽りのない打明け話

山崎　少しお集まりを願つたのは一大陸一の新年號に閣下の興味ある話をといふか、統制經濟下の國民生活といふか、まア餘りいつたものゝ實際話に及びたいので、御參會を願つたのです

深川　何んなことをお話し致したら宜しいでしょう？

山崎　先ず花柳界の景氣、カフエーの樣子、その外色々あるでやないか

西五辻　ソリヤ、マ、のどれにはイロハもらう（笑）

深川　花柳界の景氣は御覽の通りいろ〳〵の方からの御注文もあり、御入りの方でも自宅するといつた風で、うわべは靜かですけれど、實際の景氣は餘り香しくありません、一流どころは流行にお客さんが御座敷勝ちなので大抵は芸でないらしいが、二流三流どころの藝妓は殘らあつて

富永　僕は三割位騰つてゐるであらうと思ふのだが、然ういへばそんなものかも知れぬ

百五十圓の月給生活者

山本　そこで伺ひたいのは、實際の國民——まア東京市民の暮し向の話ですが、橋本さん一つ、試みに一ヶ月百圓とか百五十圓の收入のある市民生活を伺はせて下さい

橋本　私は酒屋方面の例を申しますが、酒屋の番頭は大抵月給百圓から百五十圓ですが、百五十圓といふのは少い、併し百五十圓の月收としまして、家賃が三十圓、家族五人として米代が二十五圓、瓦斯電氣代が七圓とし、副食物が三十圓、敎育費十圓、それに稅金、被服費といつたものを入れますと何としても赤字ですなア

西五辻　併し酒屋の番頭で百圓と思ふ、生活の計算を一寸見積つて見ました、月收百五十圓家族五人のものとしてですネ

岡田　家賃（四室として）三十圓
米代（四斗五升）二十圓
副食物（一日一圓）三十圓
被服費　十圓
讀書、新聞　二圓
敎育費（中等校二人）廿五圓
（初等校一人）十圓
電燈料、瓦斯代、炭代　三圓
交際費　五圓
保險料　一圓
町會諸社費　二圓
稅金　四圓
間食費　三圓
雜費　五圓
殘金貯金　百四十五圓
合計

山本　それは隨分切り詰めた生活だと思ひます、一方國民の收入は何うでせう

山崎　生產業者は何うかね、米の買ひ行きは流石に内地では減つてゐますが、戰地（盛るのは大抵當地でですが、百度以上の暑いところを通つて行くと、酒が旨くなつてゐるのが多い、此も春めないといふ話もありますし

山本　それは隨分切り詰めた生活だと思ひます、一方國民の收入は何うでせう

山崎　生產業者は何うかね、一つの藝のバロメーターとされてゐる酒の方のお話を伺ひたいですネ

橋本　酒の賣れ行きは流石に内地では減つてゐますが、戰地（當地ですので相當なものです、併し戰地（盛るのは大抵當地でですが、百度以上の暑いところを通つて行くと、酒が旨くなつてゐるのが多い、此も春めないといふ話もありますし

山崎　酒で酒が作つてゐるやうなものか

橋本　酒粕でも、麹でも、麹屋で酒を作つてゐるのもあります、戰地（當地）では酒が非常に高くなり、戰爭の始まる前に七八圓の酒が今は二十五圓もするやうな始末です

西五辻　それでもアメリカの禁酒時代よりは安い

山本　アメリカの禁酒時代よりは安いといつても、日本ではまだ安いとは言へないネ

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

深川　洋酒が最近に高くなりましたね、戰爭の始まる前に七八圓のものが今は二十五圓もします、橋本さん

橋本　酒の賣れ行きは流石に内地では減つてゐますが、戰地（當地ですので相當なものです、併し戰地（盛るのは大抵當地でですが、百度以上の暑いところを通つて行くと、酒が旨くなつてゐるのが多い、此も春めないといふ話もありますし

山崎　酒で酒が作つてゐるやうなものか

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

左前に痛い酒の値上り

西五辻　それでもアメリカの禁酒時代よりは安い

山本　アメリカの禁酒時代よりは安いといつても、日本ではまだ安いとは言へないネ

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

深川　洋酒が最近に高くなりましたね、戰爭の始まる前に七八圓のものが今は二十五圓もします、橋本さん

橋本　酒の賣れ行きは流石に内地では減つてゐますが、戰地（當地ですので相當なものです、併し戰地（盛るのは大抵當地でですが、百度以上の暑いところを通つて行くと、酒が旨くなつてゐるのが多い、此も春めないといふ話もありますし

山崎　酒で酒が作つてゐるやうなものか

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

深川　そんなの隨分あるさうですわ、わたしの方では大變な景氣で、金に糸目なし、千圓位は何んでもないらしい、勿論表面、雜用の方ですから、行くものが多い

西五辻　ヤ、も行つたら何うかね

深川　實際、も少し若かつたら行つて一旗擧げるんだが……

山本　今度は、これも突飛りの一つの景氣のバロメーターとされてゐる酒の方のお話を伺ひたいですネ

橋本　酒の賣れ行きは流石に内地では減つてゐますが、戰地（當地ですので相當なものです、併し戰地（盛るのは大抵當地でですが、百度以上の暑いところを通つて行くと、酒が旨くなつてゐるのが多い、此も春めないといふ話もありますし

山崎　酒で酒が作つてゐるやうなものか

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

西五辻　それでもアメリカの禁酒時代よりは安いといつても、日本ではまだ安いとは言へないネ

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

左前に痛い酒の値上り

山本　俺の關係から絲う安く入れないだらう

西五辻　ところがそこにはそれがあるさうだ

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

深川　洋酒が最近に高くなりましたね、戰爭の始まる前に七八圓のものが今は二十五圓もします、橋本さん

橋本　酒の賣れ行きは流石に内地では減つてゐますが、戰地（當地ですので相當なものです、併し戰地（盛るのは大抵當地でですが、百度以上の暑いところを通つて行くと、酒が旨くなつてゐるのが多い、此も春めないといふ話もありますし

山崎　酒で酒が作つてゐるやうなものか

橋本　原價が跳ねたら、あすこにある洋酒が相當割安く入つて來ると思ふ

左前に痛い酒の値上り

西五辻　それでもアメリカの禁酒時代よりは安いといつても、日本ではまだ安いとは言へないネ

謹賀新年

戰捷譜高から事變下第二の春を迎へて

昭和十四年元旦

青木爲雄	青木定義	青木藤一郎	青木市太郎	青木清一郎	青山恭三	有門榮	秋山太郎吉	秋元吉顯	淺野健藏	淺野義重	淺野要
淺妻新吉	千葉龜吉（セルカク街八八七〇）	土井初	四城傳三	榎本龍吉	榎本新一	藤田佐太郎	福原喜三郎	福山千吉	福島庄三郎	福山英雄	福島庄太郎
福川正三	福井彌一	福井正明	筆本千代人	權藤健三郎	後藤禮吉	濱垣貞一	萩野林藏	東信夫	東信子	橋本祝助	濱上彌三郎
久岡文治	星野良平	日夏嘉兵衛	日夏庄太郎	原本盛登	林喜作	林醫院	畠中茂	長谷川乙五郎	堀部彌市	堀近夫	花田金季
服部基治	平山喜八	疋田專次郎	疋田佐右衛門	畑中良雄	猪瀨泰治	伊藤宗吉	伊藤キヌ	井手律	市居千代松	磯貝惣太郎	磯谷秀吉
石崎彦吉	石原明之助	石原暎	石井菊次郎	岩井六郎	岩下今朝弘	岩田鈞一	岩田藤造	飯山卓造	井出六太郎	一圓一雄	寺家村作造
木下和一	木下雷助	木下善一	木下善市	木村岸三	岸本大藏	古林一雄	北川初次郎	北川英三郎	北村登喜藏	加來初次郎	小森松之助（イーバン）
小柳佐一郎	小柳音八（テラノバキヤナリ）	小林知明	小林廣太郎	小林末吉	小島壽	小島安藏	小野寺源治郎	喜多裁縫店	古原種吉	古月篤秀	黑田常次郎

謹賀新年

戰捷譜高らかに事變下第二の春を迎へて

昭和十四年元旦

金光　瑩	狩谷悦次	熊野光信	花月榮吉	葛原泰平	梶木眞一	熊谷　榮	近藤音造	近藤鐵爾	近藤侍作	藏光林七	河田　豐
小西長治郎	小平儀一郎	川瀨忠義	松林幹一	松山豐藏	溝淵　清	的場仁市	望月庄吉	益田百城	益田正男	前田次三郎	前田儀三郎
三宅隆吉	三宅榮壽	三井政男	宮澤八郎	宮川昌吉	宮西捨三	宮崎孝一郎	宮崎政次郎	宮崎　茂	宮下伊平	牧田開平	百瀨清春
水谷儀一郎	前川貞雄	前川登喜夫	前川文五郎	前川一義	松井正之	松本鐵藏	松本兼吉	松原　徹	松波茂一	松林平次郎	松田直一
森井悦治	森　久松	森野喜久三	森　榮内	丸橋半七	丸野吉太郎	丸野榮三郎	丸野　弘	丸野廣雄	湊川留一	武良熊一	長戸つる
中田金五郎	中井幸平	中澤義雄	中村登一	中村　宏	中濱菊一	中村寅次郎	中村重雄	中　靜枝	中元八重	中元福治	中路清一郎
野見哲一郎	永田七太郎	西　仁吉	西村吉藏	西野義雄	西本卯吉（テラノバキャナリー）	西川久平	信岡良太郎	新見虎五郎	岡本英男	岡野福藏	雄松傳之
岡田熊太郎	岡田義太郎	鬼塚末吉	奥原俊夫	小川長一	小保方美代	荻野太次郎	大藏伊之助	大野芳一	大家次郎	大波富壽	大山ヒナ

謹賀新年

戰捷譜高らかに事變下第二の春を迎へて

昭和十四年元旦

小澤正作	大山ショウ	大洞武光	大隈千助	大堀源一	大植繁榮	太田琴太郎	太田武三	佐藤三郎	佐々木英治（バンクバーヤナリ）
佐々木一二	喪中に付欠礼致候 佐藤新一	佐藤茂	清水邦夫	鈴本康藏	志風薩男	菅賢一	澁谷清	下倉貢	汐見彦太郎
庄司榮三郎	三宮もりを	三宮軍治	雜賀馬之助	島成一	島野久太郎（テラノバキヤナリ）	島森周藏	杉山岩吉	關根儀一郎	志賀一
菅原嶸	宍戸政次郎	多林喜平次	田邊平五郎	田中德太郎	田中佐太郎	田中武二郎	田中治太郎	田中治雄	田中菊次郎
田中藤一	田中時一（クインスボロー）	田元實	田頭六郎	田原サガ	田原邦美	竹中德二郎	谷井眞喜（西第廿三街二九九三）	露木正夫	高橋鶴一
飛永庄次	遠山寫眞館	土屋一	田坂耕二	田川ウタノ	玉置英雄	瀧本直吉	竹内藤吉	竹野武二	辻本音藏
内田又三郎	浦田重平	上手義雄	上手忠治	宇都宮鹿之助	若林忠次郎	渡邊純衛	渡邊米行	渡部文造	矢野清視
横田市造	吉田富治	山下新太郎	山下每登	山下五十次	山下大工	ローイ山村	吉田淺太郎	山本伊三郎	山田利夫

佐々木繁孝	佐々木周一	佐々木英治（バンクバーヤナリ）	佐藤三郎	太田武三	太田琴太郎	大植繁榮	大堀源一	大隈千助	大洞武光
庄司幸次郎	庄司安藏（ウホーノック）	汐見彦太郎	下倉貢	澁谷清	菅賢一	志風薩男	鈴本康藏	清水邦夫	喪中に付欠礼致候 佐藤新一
砂原主計	坂本忠義	志賀一	關根儀一郎	杉山岩吉	島森周藏	島野久太郎（テラノバキヤナリ）	島成一	雜賀馬之助	三宮軍治
高田清太郎	高田義孝	高橋鶴一	露木正夫	谷井眞喜（西第廿三街二九九三）	竹中德二郎	田原邦美	田原サガ	田頭六郎	田元實
上田伊曾三郎	氏家文雄（サレー）	辻本音藏	竹野武二	竹内藤吉	瀧本直吉	玉置英雄	田川ウタノ	田坂耕二	土屋一
吉本芳一	柳澤元仁	矢野清視	渡部文造	渡邊米行	渡邊純衛	若林忠次郎	宇都宮鹿之助	上手忠治	上手義雄
柳本篤二	安居義一	山田利夫	山本伊三郎	吉田淺太郎	ローイ山村	山下大工	山下五十次	山下每登	山下新太郎

勅使講談

朝陽島映

神田貞喬

（多賀正明畫）

明けまして御目度う存じます。

辰年の春は、何となく賑やかに、陽気に、目出度い気持がするものです。

扨、昨年の秋山といふ者と、相撲で勝負を決し、之又易々と打破り、漸く北八島に、勢ひを誇れる剣客として、その武威いや高くなりました。

翌武蔵は十七歳で剛ケ原の城に拠し、天晴れ数々の功名を樹てゝ、その勇名を諸国に轟かしました。その後は剣道修業のため、各地を遍歴し、あらゆる名人達と試合をせしましたが、百戦百勝、一度の敗北を取つた事なく、まことに「見よ東海の空明けて旭日高く輝けば、天地の正気凛凛と、満ち満る大八洲――」の愛国行進曲の歌の文句をつくりの御国柄に相応しい、輝く紀元の日本の姿であります。

さてその御年玉ともいふ可き事に致しまして、お目出度う存じます。

謹みて「朝陽映島」に因みまして宮本武蔵の一節「剣禅一如」の一席申上げます。

日本剣道の神と仰がれる宮本武蔵は、天正十年、中三月、播州は姫路の城主、小笠原忠真侯、九州切つての随一の剣客として、名前を知られてゐます。

慶長十七年四月、武蔵は全国各地を遍歴して、益腕を鍛へ、今や関東より中国には、唯一人として、武蔵の名を聞き及んで居られない者がないので、よき相手を求めて西国九州へ下り、豊前小倉に足を止めました。当時の小倉藩主は、小笠原忠真侯、武道に志の深い侯は、豫てから無敵武蔵の名を聞き及んで居られたので、早速召して教を請ひ度い旨を仰せ出されました。ところが藩のお抱へになつてゐるか、小笠原家師範佐々木巌流も九州切つての随一の剣客として名前を知られてゐます。巌流にしては、若し武蔵が殿の御気に召して召抱へられるやうになつては、自らの誠間違ですから心中甚だ穏かではありません。そこで、試合にかこつけて武蔵を打ちとり、彼に亡きものにすると共に自分の名誉を揚げようと二石二鳥の計策を思ひ立ち、早速使ひの者を武蔵の宿へやつて「先生の御高名は豫々承はつて居ります。就ては一度御手合せ願ひ度う存じますから、明十三日、舟島へ御越し下さいますやう」にと申遣つた。

武蔵その言葉の裏にひそんでゐる陰謀を早くも察しましたが何喰はぬ様子で「快く承諾仕つた」と返事をして使者を返しました。さア、しめた。とばかり、政る日命により無二の助太刀仕様は無論の事、相手は巌流の御前試合をといふので、諸国の剣客は勿論、門弟達は殿の御前に於て晴れの御前試合をといふことになりました。試合の結果は最初の一本は片腕の勝でしたが、続いて二回共無二の助が打込んだので遂に勝は其しそれが為め無二之助は藩主家から当下級の郷士に出りました。

無二之助はそれ以来、郷里を改め、名を武に改んで肥後に住し、藤原二世の剣客山利倫から兵法を学ばれて二天道楽を號しました。

巌流は船より出で、船より帰る迄の間に、武蔵は幼くして剣法を父に学び、年久しくして既に父を凌ぐ者と迄成しました。

さて慶長十八年中三月、武蔵は播州は姫路の城主、小笠原忠真侯、武道に志の深い侯は豫てから無敵武蔵の名を聞き及んで居られたので、早速召して教を請ひ度い旨を仰せ出されました。ところが藩のお抱へになつてゐるか、小笠原家師範佐々木巌流も九州切つての随一の剣客として名前を知られてゐます。巌流にしては、若し武蔵が殿の御気に召して召抱へられるやうになつては、自らの誠間違ですから心中甚だ穏かではありません。そこで、試合にかこつけて武蔵を打ちとり、彼に亡きものにすると共に自分の名誉を揚げようと二石二鳥の計策を思ひ立ち、早速使ひの者を武蔵の宿へやつて「先生の御高名は豫々承はつて居ります。就ては一度御手合せ願ひ度う存じますから、明十三日、舟島へ御越し下さいますやう」にと申遣つた。

武蔵その言葉の裏にひそんでゐる陰謀を早くも察しましたが何喰はぬ様子で「快く承諾仕つた」と返事をして使者を返しました。さア、しめた。とばかり、政る日命により無二の助太刀仕様は無論の事、相手は巌流の御前試合をといふので、諸国の剣客は勿論、門弟達は殿の御前に於て晴れの御前試合をといふことになりました。試合の結果は最初の一本は片腕の勝でしたが、続いて二回共無二の助が打込んだので遂に勝は其しそれが為め無二之助は藩主家から当下級の郷士に出りました。

無二之助はそれ以来、郷里を改め、名を武に改んで肥後に住し、藤原二世の剣客山利倫から兵法を学ばれて二天道楽を號しました。

巌流は船より出で、船より帰る迄の間に、武蔵は幼くして剣法を父に学び、年久しくして既に父を凌ぐ者と迄成しました。

さていよ～約束の当日、武蔵は愛刀櫓にたばさんでプラリと宿を出ました。城下に出て河縁へ来ると、柳の茨つた岸柳島が朝靄の中に見えます。試合を申込んでおきながら、出迎ひにも来ぬとは怪しからんと思ひましたが、これも先方の計略だらうと思つて、武蔵は最寄りの岸に繋つてあつた小舟に飛び乗つてギーギーと櫓を押しました。漸く霧は霽れかゝつて朝日が眩しく水面に映り出しました。ピタリ～と船縁を打つ波、ソヨソヨと吹く快い朝風！「この和やかな情景は今のわしの心理と同じちや」思はず武蔵はそう胸の裡に呟いて、眼を岸柳島に向けました。陰謀を孕んでゐる宵も島は次第に近づいて参りました。

ザ、ザ、……と船底が砂をかむ音がしたかと思ふと、船は島の遠瀬に乗り上げました。

「でつこいしよ！」

武蔵はヒラリと汀へ飛び下りました。

◇……漫畫「トンクンのデンレイ」……◇

本年の運勢

清水通州

太古三千年の昔より傳来せし「占」ふに中学の卦を得たり、中易経を世人の一部には迷信とし学には正と不正の兩面あり誠實て排斥するものもありと雖も宇宙萬象は人智の科學乃至理論にされも大体に於て好運の時とされて未だ解決せざる數多の物を有有る

中学には親鶴が子鶴に餌を與へ慈々として和して居る形あり人世に適合すれば今迄不運續きの者も目上の力を得て好運に萬事好都合に運ぶ時とされて有る間新しき事業を始ひるにも好時機である

特に本年は二黒五黄六白は最上大吉の運勢なれば此の星に當る人は大に活動せらるべし。物質に恵まる、事大である

就中女性中未婚者にして誠實真面目なれば非常なる幸福を得るとされてある。されば能く相性を撰んで求婚せらるべし

本年度の相場界は大体に於て變動少く後半期に至りてオイル株に於て多少上昇の運勢にあれども大差なからん。農産物は不作勝ち從つて賣買上には大に注目すべき年たらん

漁業界は北方は好けれども豊漁とすでは到らざるべし

前半期は降雨多くして二月乃至六月は一般に流行病に注意せらるべし

謹賀新年

昭和十四年元旦

昭和倶樂部

晩市バウエル街三八〇

電話シーモア四五三三

謹賀新年

賣藥化粧品

セエフアー萬年筆特約店

新見商會

晩市バウエル街參參壹　電話ドグラス參壹壹貳

謹賀新年

舊年中の御愛顧を深謝し

併而倍舊御引立を願上候

優良品の

最廉賣

香村商店

店員一同

晩香坡市バウエル街二六九

電話ダグラス九二

戰時新年讀物

陣中正月物語

前田森三

北支、中支、南支に轉々たる戰果を收めつゝ、わはたゞしい戰塵の裡にした事だの勇士達は、そも如何なる元日を迎へたであらうか？　今度の支那事變も既に二度目の正月に過ぎた譯であるが、當地の皆君に比戰の勞苦を偲ぶためのまがゝとして少しばかり陣中の正月風景に就て記す事とする。

◇―前線はにぎり飯正月

日清、日露、シベリア出兵、滿洲事變、支那事變と、日本軍が陣中で正月にした度數は相當に多い。時代が新しい程後方の設備が大きくなつてゐるので、陣中の正月も次第に物資豐富に過ぎることが出來るやうになつた事は云ふまでもない。

併し、それも來るに、同じ陣中でも、餘裕のある後方部隊の場合で、異在敵とマヂ〳〵やつてゐる第一線では正月も新年も、へツタクレもない。握り飯二個に單行漬を添へた昼食を丼で掻込むやうな「お正月度う」を云ふたふ。何しろ零下何十度と云ふ寒氣のので、土地はカチカチに凍てついてゐて、これそ下手なベトン・トーカ位の堅さになつて了つてゐる。歩兵用の十字鍬などはおろかなこと、工兵用の本職道具をもち出して掘つても、もの〳〵三寸も土を掘り起すのにはなみ大ていの時間と勞力ではおひつかぬ。日本人なればこそ、内地の正月を思ひ起して、せめて多少の氣分でも出さうと、汗ダクになつて門松の穴を掘る――ゆかしい風流ではある。がそのかはり少し土が凍さたら、あまり深く掘るには及ばない。とにかく、穴を掘るより

◇―實感の籠つた一里塚

門松や一途の旅の一里塚――と云ふのは、續途でもないが有名な句である。

ところで、支那の戰場とする處は、日清、日露、日露戰爭の時と同じく、一里塚を陣中に立てたものだ。と云ふのは、元來、門松に必要なる松の木などふものが、支那にはわかりない。支那で松の木のあるのは戰場で相當がきまつてゐるからである。

陣中で新年を前にして餅を搗く氣持は、又とても樂しいものださうである。だから、滿足に餅の形をなさないやうな怪しげな米でもともかくも兵隊は餅を搗く。

で、部隊長以下、そして兵の皆でもとつたやうなはしやぎ方。

元日から一日づゝ、部隊長以下順に席代りに飲んだが、終りの方になると、四升入の樽が出來る。仕方がないので水筒の水を樽に入れ振りたくり、中に正月を迎へるのである。

若水　初夢

注連繩は大ていの酒樽のコモで作る。これは農村出身の手のもので、慰兵部としてとゞけられた酒樽のコモをはがして、またゝく間に作り上げてしまふ。門松を立てシメを張れば、殺風景な支那大陸でも、どうやらお正月らしい氣分がして來る。

勿論、こんな餘裕のある位な後方の部隊だと、餅や生魚の配給もあり、不自由ながら正月の眞似事位は出來るのである。

若水を鳥にわかつや輜重卒

と云ふ句がある――日露戰爭に出征したある俳人の句であるが、如何にも愛鳥精神が躍如としてゐて、一寸ホロリとさせられる陣中正月風景ではないか。

初夢に凱旋門をくゞりけり

と云ふのもある。酒でのシメ、鳥の若水、凱旋の初夢、戰場には戰場の正月があるのである。

陣中で新年を前にして餅を搗く氣持は、又とても樂しいものださうである。だから、滿足に餅の形をなさないやうな怪しげな米でもともかくも兵隊は餅を搗く。

海軍のお正月

軍國の事すばらしい戰績の事乍ら軍人さんたちのお正月の事ゝ聞くと又なんなに樂しい事でせう。

航海中は引きあげられて、舷側に吊つけされます）には門松を飾りかざり、舷梯（碇泊中の艦の舷側から、斜に吊下される船内の乘り降りに用ひる「シゴ

艦内には、砲塔その他の武器に、悉しくかぶみ餅が供へられ、全員は午前六時に起床し、まづ御眞影を奉拜して、艦長さんの訓示があり、終つてお酒、お雜煮、數の子、くろ豆等で、お家に居る時と同じやうに正月の御馳走をいたゞき、容晴半から樂しい上陸が許されます。

水兵さんたちは大喜びで、軍艦マーチなど口すさみながら、各自思ひ〳〵に上陸をします。

軍艦は常國軍艦の雄姿と、水兵さんの餅つき、お雜煮を祝ふ水兵さんたち

たゝいお祝ひすることになつてゐます。

海軍のお正月は種々樣々ですが、艦が熱國にゐる時には白い夏服をきて汗を流しながら「やあ新年おめでたう」とやることもあります。

お正月の各艦内には、砲塔

賀正　晩市メーン街二三二　竹内家具店　電話ダグ五五六七

賀正　晩市パウエル街三九一　朝日紙函製造所　貴名正倫　電話シー八一三

賀正　晩市パウエル街三三二　御菓子商　武藏屋

賀正　晩市パウエル街三七九　籐原寫眞館　電話シー五八八二

賀正　東へステングス街一一二　出張所パウエル街二一四　村上寫眞館　電話シー七七四五

賀正　晩市東カドバ街三四四　大工職　澤田幸吉　電話シー五五六一アール

賀正　晩香坡　日本婦人會

賀正　晩市東カドバ街一五一　紀伊商會　電話シー六八三

賀正　晩市パウエル街三一五　林榮進堂　電話ツリニチー　二七八エル

謹賀新年　モダーン・グロサリー　國府田道之助　晩市西プロードウエー一〇九七　電話ベビー七五〇〇

謹賀新年　菓子、果物、煙草　神原商店　晩香坡市メーン街二四九　電話ツリニチー五八一二

謹賀新年　晩市パウエル街二六八　杉山運送舍　杉山新吉　電話ダグ三〇五九

謹賀新年　晩香坡市ゴーア街貳貳貳　運送業、薪炭販賣　名畑運送社　宮本　電話シーモア一〇八九

謹賀新年　晩香坡市パウエル街四六三　丸忠運送舍　電話ハイランド一五六六

謹賀新年　晩香坡市パウエル街　八一　曾我運送舍　電話ダグ四七八八アール

謹賀新年　晩香坡市パウエル街二三八　丸越運送舍　電話シーモア三五二八

謹賀新年　晩香坡市パウエル街三三三　ラヂオ　速水繁雄　速水薪炭　電話シーモア四一二一

謹賀新年　ラヂオ各種修繕販賣　井上博志　晩市東へステングス街六〇五　電話ハイランド一六六〇

謹賀新年　晩香坡市シーモア街一三五三　林グラーヂ　林藤兵衛　電話ツリニチー四六　住宅西第六街五一六　電話フェア二五九七エル

謹賀新年　晩香坡市パウエル街二一一　セフテーグラーヂ　電話ダグラス五五七四

謹賀新年　晩市ゴーア街カドバ街角　朝日グラーヂ　坂木哲摩　電話ダグラス五五四五

謹賀新年　晩市東カドバ街七九〇　カドバ・グロサリー　西河原菊三郎　電話ハイランド三一六〇

謹賀新年　晩香坡市メーン街一一二　ターメー自轉車店　電話ダグラス五五五九

謹賀新年　晩市ゴーア街二一六　鷄肉販賣　宮崎豆腐店　電話ダグラス四六七三エル

謹賀新年　晩香坡市パウエル街三九一　ビクトリ・ルームス　中島田格太郎

謹賀新年　晩香坡市パウエル街三三六　キングルーム　晩香坡市パウエル街一七二　パウエルプール・ルーム

謹賀新年　舊年中は格別の御引立に預り深謝奉り候　當本年も御愛顧の程願上候　東へステングス街一二二　本店　ホテル・ニューライオン　グランビル街九三六　支店　ホテル・ランドン　ゴーア街四四五　支店　ホテル・イスト　館主渡邊郁子　支配人松井糸正之

謹賀新年　晩香坡市パウエル街一二六　電話シー四六二四　ハムプトンルームス　尾前信夫

謹賀新年　晩香坡市パウエル街三九一　ビクトリ・ルームス　中島田格太郎

謹賀新年　晩市パウエル街一四三　上西旅館　電話ダグラス四七八五アール

謹賀新年　ニウハーバールームス　宇田善吉　晩香坡市東カドバ街一三九　電話シーモア二四九〇エル

謹賀新年　晩香坡市パウエル街三六六　サンルームス　塚本正人　電話ダグラス五〇五一アール

謹賀新年　大井藤吉

文藝

英靈に捧ぐ

晩香坡島しほ子

延久さん！

あの日のあなたのお顏が目の前にちらつきます。

「もうそろ〳〵いゝお嫁さんを貰はなければ」

と言つた父の言葉に對して

「僕はいつ死ぬかもわからないから」

と快活に笑つたあなたのお顏が——、私はたゞ軍服の袖に聞き流したその言葉を、今にして始めて、しみ〴〵とかみしめてゐるのです。

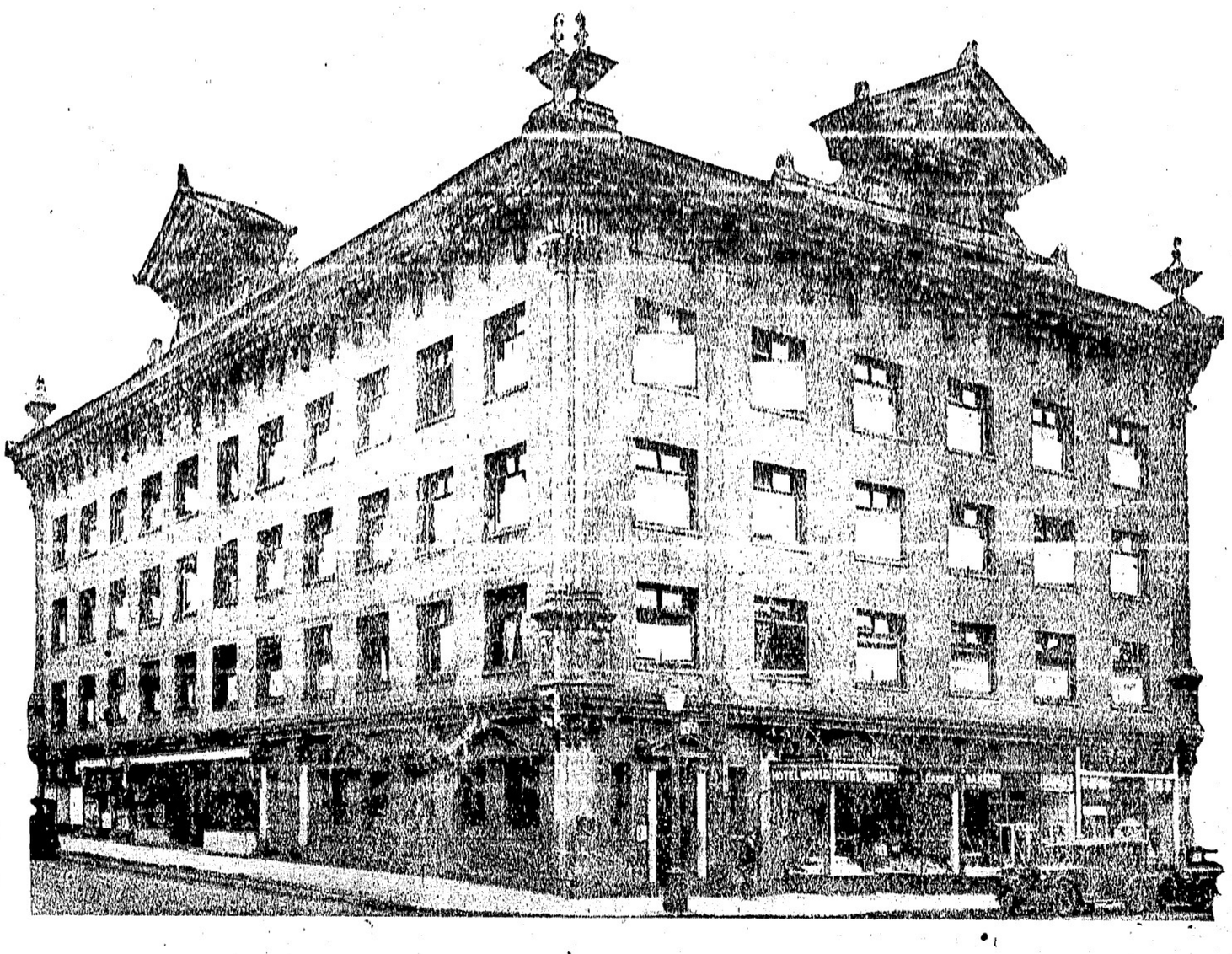
冗談ではなかつた。あの時から覺悟に身をふる〳〵以上、あなたは既に今日あるを豫期してゐたのでせう。

あれからもう五年の歳月が經ちました。

あの日、隣分久しぶりにお逢ひした二人でした。笑ひながら遲づいて來る軍服のあなたを、私はたゞまじ〳〵と見つめてゐるばかりで、「延久です」とあなたがさう名乘つしやるまで、ほんとうに、紙がつゝませんでしたが——。

さうして初めて「まあ、延久さん、隣分立派になつたのね」と忘れからさう言つた私でしたが——。

二人の叔、一緒に遊んで呉れた事に就いろ〳〵とかし遊つて逢ふ機會のない私達でしたから、あ



謹賀新年

客年中は多大の御眷顧を蒙り有難御禮申上候

長期戰對應の新春に當り一層の御引立願上候

一千九百三十九年一月一日

日加商業貯蓄會社

晩香坡市パウエル街三九八

Japan and Canada Trust Savings Company.

398 Powell St., Vancouver, B. C.

Vol 34 No. 9624 Sunday, January 1 1939 TAIRIKU NIPPO 昭和十四年一月一日 日曜日 第九千六百廿四號

大陸日報

TAIRIKU NIPPO
(THE CONTINENTAL DAILY NEWS)
PUBLISHED BY
TAIRIKU NIPPO SHA. LTD.
213 & 215 CORDOVA ST. E.
VANCOUVER, — B. C.
號外附錄

抗戰主流派は憤慨

蔣介石も驚愕の体

香港卅一日——重慶來電に依れば汪精衛の聲明は即時蔣介石の香港駐在代表陳光甫の手に依つて重慶に通報された、國民政府當局は明かにこの事實あるを察知してゐた模樣であるが、唯其の內容の極めて大膽且つ積極的なのにいづれも驚愕の体で、首腦部はより〳〵對策協議中だが抗戰主流派は汪の裏切りに對して斷乎たる手段に出んことを主張してゐる、尙豫聲明の積極性から見て、汪は當然和平反決の實際運動に乘出すものと一般に見られて居り、武漢・廣東の陷落以來停戰氣分濃厚な資產階級インテリ層の反戰和平への積極的動きはもとより連戰連敗士氣沮喪且つ軍費不渡にて苦境に沈淪せる傍系部隊や雜軍の一大動搖は免れない形勢でこの點國民政府當局も深憂の色を示してゐる

汪聲明に同意の 新政府

北京卅一日——汪精衛の聲明に對し臨時政府當局は未だ公式意見の發表を避けてゐるが、同聲明が十二月廿二日の近衛聲明に關聯して發表された日本政府の根本方針を以て和平の精神に一致し得るものであるとなし、東亞全局の動向に對する新なる認識の下に極めて積極に日支和平回復を建設してゐる事に滿腔の同意を表してゐる、特に國民黨政府側の態度に於ても國民黨內一の元老とも言ふべき汪精衛から派遣された事に注意を拂つてゐる

香港卅一日——汪精衛の和平に關する重要聲明は各方面に多大の反響を呼び、卅一日の香港支那各紙は何れも之に對する批評に筆を費やしてゐるが、唯其の內容の極めて大膽且つ積極的なのにいづれも驚愕の体で、首腦部はより〳〵對策協議中だが抗戰主流派は汪の裏切りに對して斷乎たる手段に出んことを主張してゐる、尙豫聲明の積極性から見て、汪は當然和平反決の實際運動に乘出すものと一般に見られて居り、武漢・廣東の陷落以來停戰氣分濃厚な資產階級インテリ層の反戰和平への積極的動きはもとより連戰連敗士氣沮喪且つ軍費不渡にて苦境に沈淪せる傍系部隊や雜軍の一大動搖は免れない形勢でこの點國民政府當局も深憂の色を示してゐる

◇

香港卅一日——當地各支那紙の報道によれば問題の人王精衛は卅日夜秘書曾仲鳴外近親兩三名を伴同極秘裡に佛印方面より香港着九龍の某民邸に入つたと云はれる、目下香港には陳肇君夫人、陳公博、顧孟餘、緒民讓等改革派要人參集、今後の對策を考究中で、昨卅日夜の聲明をきつかけに日支間題解決の爲め如何なる行動に出るか極めて注目される

外字紙の態度

ニユヨーク卅一日——王精衛が去る廿二日の近衛聲明に日支和平交涉の基礎として受諾し得る旨聲明したとの電報が當地に傳へられたが、卅日のニユヨークタイムス各紙は多大の興味を示して王の聲明が果して蔣介石と事前に諒解を得た上で爲せられたものか乃至は王精衛の單獨行動であるかの點に疑問をかけて居り、早急に批判を下す事を避けた、署長は

「元日は日曜日だから成るべく其の邊の所をわきまへてお祝ひするのであつたら何等差支はない」

と云つて居た

王精衛の略歷

王精衛は一八八五年廣東省に生れ本年五十五歲、故孫文の直弟子で蔣介石よりは先輩である、日本法政大學卒業、日本留學中に孫文の門に入り革命運動に携はり中華民國元勳の一人

邦人の体

堀讓爾君の奇禍

市內西廿街三五一堀七藏氏長男讓爾二君は卅日午後三時頃メーン街と第一街角のカートライト・ランバー會社(上杉氏經營)よりピーシー・ファー會社に木材を運搬して來てブラックから取下す際過つて木材の下敷となり即死した、來る一月三日夜自宅に於て通夜を行ひ四日午後合同教會で葬儀を執行する豫定

新年の祝ひ

警察でも大目にみる

明けて今年の元旦も日曜日に當るので除夜の騷ぎや、ホテル、キヤバレー等に於ける宴會などは喧しい日曜法に照らすと卅一日夜半十二時限りでピツタリ止めねばならぬところだが、警察では年に一度のセリープレーションゆゑ大目に見ることになつた、

氷川丸入港

上陸者十餘名

郵船氷川丸は十二月三十日午後入港、同船では海軍中佐三神止氏等が乘船してゐたがシアトルへ上陸の筈、尙當地上陸の船客は左の如し

大丈イシエ、岩本サチ、同政

卅年前の今日 大陸日報から

◇明治四十二年一月一日 溝邊商店內に於て拳銃騷動あり池田某の訴へにより荒木某警察に拘引されしも何分妻子ある身なれば穩便に濟まされたしとの歎願によりて放免された

正月の催し

映畫や演藝

△新光社映畫——一月二、三日兩日とも午後二時と七時半から日本人ホール

△ステプストン佛青演藝會——一月三、四日兩日とも午後六時半から同地佛教會ホール

△ミツシヨン青年會演藝會——一月二日午後二時同地集會ホール

△メープルリッヂ佛教婦人會主催演藝會——一月二日午後三時から同地昭和會館で

泣いてゐる
蔣介石

謹賀新年

在日本社長 山崎 寧
總支配人 岩崎與理喜
編輯長 川崎 清涌
記者 船 英一郎
同 山本 倫由
同 山崎 勉
客員 宮崎孝一郎
英文欄 岩崎 勉
營業部長 荒川 武男
部員 岩崎みをり
同 三井 義忠
同 森 健三
同 河上 秀義
同 砂原萬鶴子
同 工塲 長
杉万 岩藏
吉田嘉一郎
山元 三三
辻 喜太郎

東京支社 山本熊太郎
川上 寶夫
甫森 林藏
石井孝八郎
鉛版部 近藤 庄太
印刷部長 辻 弘太郎
森本利三郎
楠本 恒良
山本 一郎